

**令和3年度
釧路工業高等専門学校専攻科学生募集要項
(第2次)**

I 募集定員

専攻	募集定員
建設・生産システム工学専攻	若干名

II 選抜日程

区分	出願期間	選抜期日
第2次	令和2年11月 9日(月)～令和2年11月11日(水)	令和2年12月15日(火)

III 出願推薦選抜

1.出願資格

次の(1)から(7)のいずれかに該当する者

- (1) 高等専門学校を卒業した者及び令和3年3月卒業見込みの者
- (2) 短期大学を卒業した者及び令和3年3月卒業見込みの者
- (3) 専修学校の専門課程を修了した者及び令和3年3月までに修了見込みの者のうち学校教育法第132条の規定により大学に編入学することができる者
- (4) 外国において、学校教育における14年の課程を修了した者
- (5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における14年の課程を修了した者
- (6) 我が国において、外国の短期大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における14年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (7) その他、本校専攻科において高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

2.出願手続

(1) 願書受付

① 受付期間	令和2年11月 9日(月)～令和2年11月11日(水)までとし、郵送の場合は、令和2年11月11日(水)16時必着とします。
② 受付時間	9時から16時まで(12時から13時までを除く。)
③ 受付場所及び 出願書類送付先	釧路工業高等専門学校 学生課修学支援係 〒084-0916 釧路市大楽毛西2丁目32番1号 電話 0154-57-7222

(2) 出願に必要な書類等

志願者は、次の書類等を取りまとめ、提出してください。

①	入 学 願 書	本校HPより様式をダウンロード及び印刷(135kg厚程度のA4白紙)し、必要事項を記入(自筆)してください。
②	調 査 書	本校HPより様式をダウンロード及び印刷(135kg厚程度のA4白紙)し、在籍学校長が作成・厳封してください。 (高等学校から高等専門学校へ編入学した者は、出身高等学校の調査書も添付してください。)
③	写真票及び受検票	本校HPより様式をダウンロード及び印刷(135kg厚程度のA4白紙)し、必要事項を記入(自筆)のうえ、出願前3か月以内に撮影した写真(上半身・無帽・正面向きで、縦4.5cm×横3.5cm)を所定の場所に貼付してください。
④	小論文 (アドミッションポリシー)	本校HPより様式をダウンロード及び印刷(135kg厚程度のA4白紙)し、必要事項を記入してください。
⑤	検 定 料	16,500円 検定料を最寄りの金融機関所定の振込依頼書により、下記振込先に振込みの上(ATM不可)、取扱金融機関収納印を押した「振込済証明書(金融機関所定の様式)」を必ず受け取り、送付先住所・検定料振込済証明書貼付欄の所定の位置に貼ってください(コピー不可)。既納の検定料はいかなる理由があっても返還できません。 ※振込期間：令和2年11月 4日(水)～令和2年11月11日(水) 振込先 北陸銀行 釧路支店 普通口座 5062100 独立行政法人 国立高等専門学校機構本部 注:国費外国人留学生が、本校専攻科の入学を許可され、かつ国費外国人留学生として留学期間の延長が認められた場合は検定料相当額を返還します。
⑥	受検票等送付先	送付先住所・検定料振込済証明書貼付欄に、受検票送付先住所を記入してください。

(3) 出願に関する注意事項

- ① 出願書類を郵送する場合は必ず「簡易書留郵便」とし、封筒の表に「専攻科出願書類在中」と朱書きして送付してください。
- ② 出願書類に不備があるものは受け付けません。
- ③ 提出した出願書類に虚偽の記載があった場合は、入学後であっても入学を取り消すことがあります。
- ④ 願書提出後の記載事項の変更は認めません。
- ⑤ 受理した出願書類及び検定料は、いかなる理由があっても返還しません。

3.選抜方法

入学者の選抜は、学力検査、調査書の内容等を総合して行います。

(1) 学力検査の日時等

日 時	令和2年12月15日(火) 9:10～10:50 ※集合時間等は、受検票送付時に同封します。
場 所	釧路工業高等専門学校(釧路市大楽毛西2丁目32番1号)

(2) 学力検査の出題分野等

専 攻 名	出 題 分 野
建設・生産システム 工学専攻	(次の6分野の中から選択する2分野を入学願書に記載する) 機械設計製図, 機械材料力学, 機械材料・加工, 建築計画, 建築構造, 建築材料・生産

(3) 受検上の注意

- ① 検査当日は、「受検票」を持参してください。
- ② 学力検査実施に際し、電卓の使用は認めません。
- ③ 学力検査実施中は、計時機能のみの腕時計の使用を認めます。

4.合格発表

(1) 日 時 令和2年12月21日(月) 正午

- (2) 合格者の受検番号を本校学生玄関前に掲示するほか、本校ホームページに掲載します。また、本人に文書で通知します。

なお、電話等による問い合わせには、一切応じられません。

5.入学確約書の提出

合格通知を受けた者は、**令和3年1月18日(月)**までに「入学確約書」を、本校学生課(修学支援係)へ提出してください(郵送の場合は、**令和3年1月18日(月)**必着とします。)

なお、期日までに「入学確約書」が提出されない場合は、本校への入学意志がないものとして取り扱います。

6.入学手続等

入学手続きの概要は次のとおりです。その詳細については、合格者に後日(3月上旬)別途通知します。なお、所定の期日までに入学手続きを完了しない者は、入学を許可しません。

(1) 入学手続期間

令和3年3月上旬

(2) 入学に係る費用

・入学料 84,600円(令和元年度実績額)

(3) 授業料

・年額 234,600円(令和元年度実績額)

IV 個人情報保護について

入学志願者から提出された入学願書や調査書等に記載されている個人情報及び選抜に用いた検査成績・評価といった入学者選抜を通じて取得した個人情報は、入学者選抜の資料として利用するとともに、次の目的のためにも利用します。

(1) 学籍簿管理のため本校教務事務システムへ学生基本データとしての登録や、授業料の関係上、本校会計事務システムへの登録

(2) 入学料、授業料の免除申請審査及び奨学金の申請審査

(3) 本校及び国立高等専門学校全体の教育制度・入学者選抜制度の改善のための調査・研究

受検及び修学上特別な配慮を必要とする場合について

受検上及び修学上特別な配慮を必要とする場合は、出願前に学生課 修学支援係(電話 0154-57-7222)へ相談してください。

専攻科入学案内

1 専攻科の設置

平成16年4月

2 専攻科の目的

本校専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、より深く工業に関する高度で基礎的な知識及び技術を教授します。これにより、5年間の教育で培われてきた実践的技術者としての素養に加え、より高度な解析力を駆使する技術開発能力と研究開発能力を身につけ、学際的な専門基礎知識を備えた創造型技術者の育成を目的としています。

3 入学者受入方針(アドミッションポリシー)

本校専攻科では、上記の目的を踏まえ、次のような人に入学してほしいと考えています。

- 技術や科学の素養があり、より高度で幅広い技術の修得を目指す人
- 基本的な教養と倫理観を身につけた人
- コミュニケーション能力の向上を目指す人
- 技術的課題に積極的に挑戦する意欲のある人
- 技術を身につけ、地域・社会に貢献する希望のある人

4 専攻及び入学定員

建設・生産システム工学専攻 6名

電子情報システム工学専攻 10名

5 修業年限及び修了要件

- (1) 修業年限 2年
- (2) 修了要件 62単位以上修得

6 専攻科の教育方針及び各専攻の特色

本校専攻科では、本科課程の教育方針を引き継ぎ、発展させて、「創造的な技術開発能力、情報の高度処理能力、国際化への対応能力を総合的に兼ね備え、技術者倫理と地域への強い貢献意識をもった高度技術者の育成」を教育方針としています。

(1) 建設・生産システム工学専攻

主として、機械工学及び建築学を基礎とする学生に対し、本科で修得した基礎学力、専門的能力をさらに高い水準に上げることのできるカリキュラムを構成しています。これにより問題解決能力・豊かな発想力をより高めた実践的技術者を養成します。さらに、学科の共通あるいは境界領域の分野に関しては、建築設計と機械設計の両方の視野のもとで対応できる設計・開発技術者や、地域の特色である低温環境における諸問題に対応できる技術者を育成します。

(2) 電子情報システム工学専攻

主として、電気工学、電子工学及び情報工学を基礎とする学生に対し、本科の教育で修得した基礎学力を直接活用しながら、高度な専門技術を学ぶことにより、効率よく専門性を高めることができます。さらに、互いに関連する境界領域についても学ぶことにより、専門知識に広がり応用能力を兼ね備えた創造性豊かで高度な研究開発能力を有する高度実践的技術者を養成します。

7 教育課程

教育課程は、一般科目及び専門科目で構成されており、さらに専門科目は専門共通科目と専門展開科目で構成されています。詳しくは本校ホームページを参照してください。

8 学士の学位授与

本校の専攻科は、高等専門学校専攻科学士の学位授与に係る適用認定を受けており、所定の条件を満たした者は、学士(工学)の学位が授与されます。

9 入学手続き時に必要な経費

- (1) 入学料 84,600円（令和元年度実績額）

10 入学料・授業料免除

(1) 入学料免除

入学前1年以内において、本人の学資を主として負担している者が死亡又は風水害等の災害を受けた場合など、特別な事情により入学料の納付が著しく困難であると認められる場合は、本人の申請に基づき、選考のうえ入学料の免除(全額又は半額)又はその徴収を猶予する制度があります。

(2) 授業料免除

経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者、又は風水害等の災害を受け授業料の納付が困難と認められる者に対して、本人の申請に基づき、選考のうえ授業料を免除(全額又は半額)する制度があります。

11 奨学金制度

日本学生支援機構の規定に基づき、学業・人物ともに優れ、かつ健康であって学資の支弁が困難と認められる者に対し、本人の申請に基づき、選考のうえ奨学金が貸与される制度があります。

12 その他

その他不明な点や詳細については、下記にお問い合わせください。

釧路工業高等専門学校 学生課修学支援係

〒084-0916 釧路市大楽毛西2丁目32番1号

TEL 0154-57-7222

生産情報システム工学プログラムについて

今日の産業界は大きな国際化の波の中で、あらゆる分野において複合化・融合化・高度化による競争力が求められています。そのため、企業においては専門領域だけではなく、境界領域にも関心や知識があり、創造力、問題発見・解決能力をもつ即戦力となる技術者が求められています。また、これと同時に、地域社会に深く根付き、地域の社会的・技術的要請に応え、地域と連携し、地域に貢献する技術者も必要とされています。特に、産業の国際化の中で、世界に通用する技術者を育成することは高等教育機関における大きな課題です。

このような背景において、本校は「生産情報システム工学」教育プログラムを設定しました。教育プログラムの対象期間は、主として本科4年次（3年次に配当された大学相当の科目の履修を含む。）から専攻科2年次までの4年間に相当する学習・教育とし、一貫した一つの教育プログラムとしました。

さらに、平成18年度（2006年度）には、JABEE（日本技術者教育認定機構）による審査を受け、世界に通用する技術者を育成する教育プログラムであることが認定されました。

以下に、本校の教育プログラム名および学習・教育到達目標について示します。

本校の教育プログラム名

認定分野 : 工学（融合複合・新領域）関連分野
教育プログラム名：生産情報システム工学

本校のJABEEプログラムにおける学習・教育到達目標

本校は、

- 創造力、問題発見・解決能力をもち即戦力となる技術者
- 地域の社会的・技術的要請に応え、地域と連携し、地域に貢献する技術者

の育成を大目標として掲げ、これを達成するために以下の7つの学習目標を設定しています。

JABEEで要求されるのは、この教育プログラムを修了した学生諸君の成果（outcomes）です。「説明」の項目に示されているように、プログラム修了生は「～を身につけている」ことが保証されていなければなりません。本校は「～を身につけている」学生を養成するために、教育システムを常に改善していきます。

本校専攻科入学生は全員この教育プログラムの履修生となりますので、この学習目標を踏まえたうえで、「生産情報システム工学教育プログラム」修了生としての要件をよく理解し、勉学に励んでください。

- A （技術者として社会に貢献するために）人類の歴史的な背景，文化や価値観の多様性を理解し，地球的規模で社会問題や環境問題を考える応用能力，および技術が社会や環境に与える影響を認識し，技術者が社会に対して負っている責任を理解する応用能力及び技術者としての倫理観を身につけている。
- B （地域・社会に貢献するために）地域の産業や社会の抱える課題に対処できる応用能力を身につけている。
- C （多様な技術的課題を解決できるように）工学の幅広い基礎知識（数学，自然科学，情報技術，設計・システム系，情報・理論系，材料・バイオ系，力学系，社会技術系の基礎工学）を修得し，それらを応用する能力を身につけている。
- D 技術者として自己の基盤となる専門分野の知識（専門応用系，工学実検系，問題解決系，実務対応系）を修得し，それを応用する能力を身につけている。
- E 多様な技術的課題を分析・総合し，解決するための計画をたて，その計画を実行して課題を解決するデザイン能力を身につけている。さらに，チームワークで仕事をする能力を身につけている。
- F 文章，口頭，図表や視覚的な方法によって，効果的にコミュニケーションができる応用能力を身につけている。すなわち，日本語で論理的に記述し討論する能力，および簡単な論理的文章を英語で記述し，英会話によるコミュニケーションを行うための基礎知識を身につけている。
- G （技術の進展や社会の変化に対応できるように）日本語だけではなく英語も使用して，継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につけている。